

「七日市場の歴史（第五十八回）」

地区の話題

曾根原 孝和

涅槃会（ねはんえ）とは 陰暦二月十五日の釈迦入滅の日に日本や中国などで行われる、お釈迦様の遺徳の追慕と報徳のための法要です。現在は三月に行なわれる所もあります。法要は、寺や堂などで涅槃図を掲げ「やしょうま」を供え、生花なども添えます。参加者はお経を唱えてお参りをします。

涅槃図とは 釈迦が涅槃に入る時の様子を描いた絵です。釈迦は沙羅双樹の下で頭を北、顔を西、右脇を下に臥しています。そして、釈迦を囲み弟子・国王・菩薩等 60 衆と動物が 50 類前後描かれています。

七日市場の涅槃図は、58 衆と 41 類で、こぢんまりとした小品です。しかし、質素な中にまとまりがあり、釈迦の姿が大きく描かれ、全体の色彩が美しいのが特色です。

七日市場の涅槃会 平成二十一年に涅槃図が諏訪神社で保管されていることが分かり、先人への聞き取りや集会記録の調査等からはつきりしてきたことが多いです。

- ・ 涅槃図は神社の宝蔵倉に保管されていた（神社北の阿弥陀堂からか）。
- ・ 涅槃図を描いた人は七日市場の人であろう（江戸末期ころか）。
- ・ 涅槃会は昭和四十年ころまで公民館で行われ、子どもに、「やしょうま」を配った。耕地総代が近隣の応援を得て作ったようである。

・ 昭和十七年の記録に「例年1斗分の粉を使ったが今年は1升分」と。

涅槃会の復活 「歴史の会」では、涅槃図の絵解き、他地域の涅槃図の拝観、女性会員の「やしょうま」作りの習得などから、平成二十五年に約 45 年ぶりの涅槃会を復活しました。

※今年は二月二十五日（日）、「やしょうま」配布一…三〇、涅槃会二…〇〇、直会（なおり）三…〇〇を行います。会員以外の方のご参加も歓迎しています。



涅槃図



やしょうま